

学習会

『敵基地攻撃能力』ってなに？

日時：20年11月21日（土）13時30分～15時30分まで

会場：仙台市シルバーセンター7階 第1研修室（定員171人）

講師：本田勝利さん（宮城県平和委員会）本田さんへの質問の時間も設けます。

参加費：無料

6月に地上配備のミサイル迎撃システム「イージス・アショア」の中止が発表されました。するとミサイル防衛に穴が開くとして「敵基地攻撃能力」を保持しなければ国民の安全を守れないとの声が、自民党政務調査会・国防部会から出されました。どういうことでしょうか？

ミサイル技術はすすみ、低い高度を高速で飛来するミサイル、方向を変えることのできる弾頭なども開発され、以前から、自民党は『座して自滅を待つ』ことのないよう、弾道ミサイル防衛の一環としての攻撃能力を確保。」とし、「我が国自身による敵ミサイル基地攻撃能力を保有すべきである」としていました。

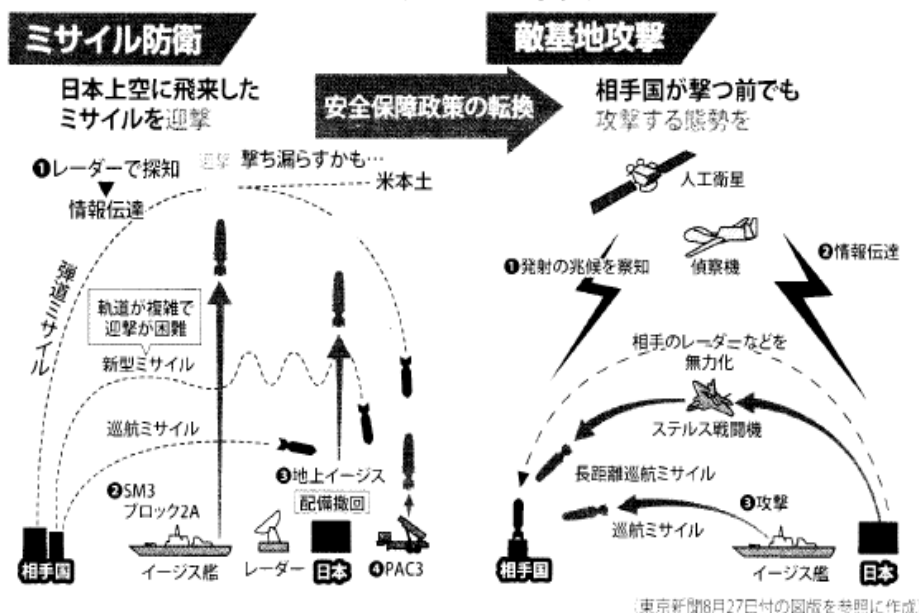
そして保有しようと思えば、隙間なく敵基地を監視できる体制と能力、敵の防御を無力化する兵器と能力が必要となり、その上での攻撃能力を持つこととなります。大変な軍拡となり、膨大な予算がつぎ込まれます。

国民生活には予算が回されず、犠牲にされかねません。

「敵基地攻撃能力」とはなんなのでしょうか？ これまで専守防衛を基本としてきたのに変化があったのでしょうか？

「敵基地攻撃能力」はなぜ出てきたのか、どういうものなのか、そしてどのくらい費用のかかるものか、考えてみましょう。

「盾」(防衛)から「矛」(攻撃)への大軍拡が…



主催：宮城県内九条の会
連絡会

〒980-0933 仙台市青葉区
柏木1-2-45 フォレスト
仙台5階

宮城県内九条の会連絡会
事務局

電話 022-728-8812

fax 022-341-5882